

令和 7 年度

岡山市会陽の里屋上防水改修工事

図面番号	建築 (A) 図 面 名 称	縮 尺	図面番号	建築 (A) 図 面 名 称	縮 尺
A-00	表紙、図面リスト	—	A-14	3階平面図（前後）	1/150
A-01	岡山市建築改修工事特記仕様書1	—	A-15	R階平面図（前後）・基礎等リスト	1/150
A-02	岡山市建築改修工事特記仕様書2	—	A-16	屋根伏せ図（前後）	1/150
A-03	岡山市建築改修工事特記仕様書3	—	A-17	設備架台基礎ブロック位置図・基礎ブロックリスト	1/150
A-04	岡山市建築改修工事特記仕様書4	—	A-18	部分詳細図1（前後）	1/10
A-05	岡山市建築改修工事特記仕様書5	—	A-19	部分詳細図2（前後）	1/5・10
A-06	岡山市建築改修工事特記仕様書6	—	A-20	部分詳細図3（前後）	1/5・10
A-07	附近見取図	1/2500			
A-08	（参考）配置図兼仮設計画図	1/200			
A-09	仕上げ表	—			
A-10	立面図1	1/150			
A-11	立面図2	1/150			
A-12	断面図	1/150			
A-13	2階平面図（前後）	1/150			

工事名					岡山市会場の里屋上防水改修工事		No.		株式会社 総合設計		
図面名					表紙、図面リスト		縮尺		A1… A3… N / S		
岡山市					都市整備局 住宅・建築部 公共建築課		令和6年7月		A-00 A-20		
課長		課長補佐		係長		課員		担当者		承認	
										検図	
										製図	

Ⅰ. 工事概要									
工 事 名 称		岡山市会館の屋上防水改修工事							
工 事 場 所		岡山市東区久保205番地1							
敷地面積		9,736.54㎡							
棟名称／構造		老人ホーム 様 RC造		棟 造		棟 造		棟 造	
施工条件		・無人改修 ○有人改修		・無人改修 ・有人改修		・無人改修 ・有人改修		・無人改修 ・有人改修	
床面積(㎡)		階	-						
	PH階	67.33	㎡						
	2 階	1,508.31	㎡						
	2 階	1,567.65	㎡						
	1 階	1,856.20	㎡						
	小計	4,999.49	㎡						
	合計							4,999.49	㎡
建築面積(㎡)								2,064.42	㎡
消防法施行令別表第一区分		6項口							
建べい率（指定率）		— %（ 60 %）		容積率（指定率）		— %（ 200 %）			
用途地域		市街化調整区域		防火地域		・防火地域 ・準防火地域		指定なし	
工 事 範 囲	・建築改修工事			別 途 工 事					
	・機械設備工事								
Ⅱ. 建築改修工事仕様									
<p>1. 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）による。図面、本特記仕様書及び改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）又は国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定「建築物解体工事共通仕様書（令和4年版）」による。</p> <p>2. 「岡山市内の公共建築物における県産材等の利用促進に関する方針」（H23.11.1）により、県産材等の積極的な利用に努めること。県産材とは、岡山県の「木材業者等登録」を受けている製材業者が製材・加工した製品とする。</p>									
2. 特記仕様									
(1) 項目は番号に○印のついたものを適用する									
(2) 特記事項は○印のついたものを適用する									
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する									
○印と◎印のついた場合は共に適用する									
(3) 項目に記載〔 〕 の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 〔 〕 の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。									
(4) ◎印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針」に定める特定調達物品等を示す。									
(5) 関係法令の改正等により（条約を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。									
(6) 材料及び製造所等の記載は順不同である。									
(7) 「監督職員」は「監督員」と読み替える。									

	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 適用基準等	※建築工事標準詳細図（令和4年版） （以下「標準詳細図」という） 国土交通省大臣官房官庁業務部監修 ※巻頭工事写真撮影要領（令和3年版） 国土交通省大臣官房官庁業務部監修
	2 電気保安技術者 [1. 3. 3]	配置する
	③ 施工条件 [1. 3. 5]	・ 施工時間帯 ※指定なし ・ 指定あり（ ） ・ 施工ができない日等 ※指定なし ・ 指定あり（※除「学校行事に伴う施工ができない等（予定）」に基づき監督職員と協議するものとする） ・ 前位別の施工順序 ※指定なし ・ 指定あり（・ 図示 ・ ） ・ 工事車両の駐車場所 ※図示 ・ （ ） ・ 機械材置場 ※図示 ・ （ ） ・ 建設発生土仮置場 ※図示 ・ （ ） ・ 退避休2日促進工事について ・ 本工事は、退避休2日促進工事の対象である。退避休2日促進工事特記仕様書を参照すること。 ・ 本工事は、退避休2日促進工事の対象外である。
	④ 工事安全計画書 [1. 3. 7]	建築工事安全施工技術指針及び建設工事公災発生防止対策要綱（建築工事編）に基づき、工事の施工に先立ち工事現場の安全対策に関する具体的な工事安全計画書を監督職員に提出する
	⑤ 発生材の処理等 [1. 3. 12]	・ 引渡しを要するもの（ ） ・ 特別管理産業廃棄物（ ） ・ 処理方法（ ） ・ 現場において再利用を図るもの（ ） ・ 再生資源化を図るもの ・ コンクリート塊 ・ アスファルトコンクリート塊 ・ 建設発生木材 ・ 押出し成形セメント板の処理 ・ 未締合押出し成形セメント板 9章による ・ ひ素・カドミウム含有せつこうボード ・ 製造業者に回収委託 ・ 準立処分（管理型最終処分場） ・ 処分施設の名称（ ） ・ 所在地（ ） ・ 倉敷市水島川崎通1丁目14番1及び17番の地先公有水面 ・ 石綿含有、ひ素・カドミウム含有以外のせつこうボード ・ 再生資源化（再生资源化施設） ・ 最終処分（管理型最終処分場） ・ 処分施設の名称（ ） ・ 所在地（ ） ・ PCB含有シーリング材の処理 ・ 第一次判定 ・ 現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する ・ 採取箇所数 計 箇所 ・ 採取箇所 ※図示 ・ 第二次判定 ・ 専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う ・ 分析箇所 計 箇所 ・ 除去処理工事 ・ 除去範囲 ※図示
	⑥ 環境への配慮 [1. 4. 1]	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する品質及び性能を有すると共に、次の1）から4）を満たすものとする。 1） 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、断熱材、断熱材、塗料、土壌塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを含有しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 2） 接着剤及び塗料にトルエン、キシレン及びビニルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 3） 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジエーナル及びフタル酸ジエーニール等）を含有しない難燃性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。 4） 1）の材料を使用した家具、書架、美術台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを含有しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒド放散量 規制対象外に該当する建築材料 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド放散建築材料以外の材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ホルムアルデヒド放散量 第三種に該当する建築材料 ① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド放散建築材料 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

7	7 材料の品質等 [1. 4. 2~5]	1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常すべき品質及び性能を有するものとする。 2) 本工事に使用する材料のうち 3) に指定する材料の製造業者等は、次の (1) ~ (6) の事項を満たすものとし、その証明となる資料 (外部機関が発行する証明書等のし) を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 (1) 品質及び性能に関する試験データが整備されているもの (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われているもの (3) 安定的な供給が可能であるもの (4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得しているもの (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があるもの (6) 販売、保守等の営業体制が整えられているもの。(なお、システムとして機能するものにあつては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられているもの) 3) 製造業者等に関する資料の提出を定める材料																												
		<table border="1"> <tr> <td>床型付鋼製デッキプレート</td><td>鉄板類</td><td>煙突用成形ライニング材</td></tr> <tr> <td>鉄骨柱下無収縮モルタル</td><td>クローゾ類</td><td>天井点検口</td></tr> <tr> <td>無収縮グラウト材</td><td>自動扉機構</td><td>床点検口</td></tr> <tr> <td>乾式保護材</td><td>自閉式上吊り引戸機構</td><td>グレーチング</td></tr> <tr> <td>重量シャッター</td><td>軽量シャッター</td><td>トップライト</td></tr> <tr> <td>既設合モルタル</td><td>オーバヘッドドア</td><td>壁面緑化システム</td></tr> <tr> <td>ルーフドレン</td><td>防水材</td><td>ポリマーセメントモルタル</td></tr> <tr> <td>吸水調整材</td><td>現場発泡断熱材</td><td>既設合自地材</td></tr> <tr> <td>可動間仕切</td><td>フリーアクセスフロア</td><td>鉄筋製ふた</td></tr> <tr> <td>移動間仕切</td><td>トイレブース</td><td></td></tr> </table>	床型付鋼製デッキプレート	鉄板類	煙突用成形ライニング材	鉄骨柱下無収縮モルタル	クローゾ類	天井点検口	無収縮グラウト材	自動扉機構	床点検口	乾式保護材	自閉式上吊り引戸機構	グレーチング	重量シャッター	軽量シャッター	トップライト	既設合モルタル	オーバヘッドドア	壁面緑化システム	ルーフドレン	防水材	ポリマーセメントモルタル	吸水調整材	現場発泡断熱材	既設合自地材	可動間仕切	フリーアクセスフロア	鉄筋製ふた	移動間仕切
床型付鋼製デッキプレート	鉄板類	煙突用成形ライニング材																												
鉄骨柱下無収縮モルタル	クローゾ類	天井点検口																												
無収縮グラウト材	自動扉機構	床点検口																												
乾式保護材	自閉式上吊り引戸機構	グレーチング																												
重量シャッター	軽量シャッター	トップライト																												
既設合モルタル	オーバヘッドドア	壁面緑化システム																												
ルーフドレン	防水材	ポリマーセメントモルタル																												
吸水調整材	現場発泡断熱材	既設合自地材																												
可動間仕切	フリーアクセスフロア	鉄筋製ふた																												
移動間仕切	トイレブース																													
8	8 特別な材料の工法	標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品等の指定工法によるものとする。																												
9	9 石綿含有建材の事前調査 [1. 5. 1]	※石綿含有建材の事前調査 工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、改修の作業に係る全ての材料について、設計図書等の文書を確認する方法及び目視による方法並びに石綿等の使用の有無について事前調査し、調査結果を監督職員に提出する。 なお、事前調査で石綿の使用の有無が明らかにならなかった場合は、分析による調査が必要になるため、監督職員と協議するものとする。 調査範囲 (※工事範囲) ・図示 貸与資料 ()																												
		調査範囲 ※外壁 (庇、笠木共)、軒裏等の建物外周部及び屋内の梁、階段裏等の見上げ面 ・図示 ※非装設改修の範囲内 ・塗装改修の範囲外を含む全工事範囲) 調査方法 ※オーストマンマーによる打診及び目視 調査は、建物外周部のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無及び屋内見上げ面等の浮きの位置及び数量 (幅、長さ、面積) の調査を行うものとする。 屋根調査は、既存の防水層、シーリング材の劣化部、とい、笠木等及び下地の劣化状況を確認する。 また、その報告書は、結果を立面図等に記載し集計表及び写真添えて監督職員に2部提出するものとする。																												
11	11 調査のための破壊部分 [1. 6. 3]	補修方法 ※図示 補修範囲 ※図示																												
12	12 技能士 [1. 7. 2]	<table border="1"> <tr> <th>工事種目</th><th>技能検定職種</th><th>技能検定作業</th></tr> <tr> <td>仮設工事</td><td>とび</td><td>・とび作業</td></tr> <tr> <td rowspan="2">防水改修工事</td><td rowspan="2">防水施工</td><td> ・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗装防水工事作業 ・アクリルゴム系塗装防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法 防水工事作業 ・F R P 防水工事作業 </td></tr> <tr> <td>・かわらぶき</td></tr> <tr> <td rowspan="2">外壁改修工事</td><td rowspan="2">樹脂接着剤注入施工</td><td> ・かわらぶき作業 ・樹脂接着剤注入工事作業 </td></tr> <tr> <td> 左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業 </td></tr> <tr> <td rowspan="2">建具改修工事</td><td rowspan="2">サッシ施工</td><td> ・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ・ガラス工事作業 自動ドア施工 ・自動ドア施工作業 ガラス用フィルム施工 ・建築フィルム作業 </td></tr> <tr> <td> 内装改修工事 建築大工 ・大工工事作業 建築板金 ・内外装板金作業 内装仕上施工 ・鋼製下地工事作業 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 </td></tr> <tr> <td rowspan="2">塗装改修工事</td><td rowspan="2">塗装</td><td> 表装 ・壁装作業 左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業 </td></tr> <tr> <td> 建築改修工事 塗装 ・建築塗装作業 </td></tr> <tr> <td rowspan="2">耐震改修工事</td><td rowspan="2">鉄筋施工</td><td> ・鉄筋組立作業 型枠施工 ・型枠工事作業 コンクリート圧送施工 ・コンクリート圧送工事作業 鉄工 ・構造物鉄工作業 </td></tr> <tr> <td> とび ・とび作業 環境配慮改修工事 配管 ・建築配管作業 路面表示施工 ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業 造園 ・造園工事作業 </td></tr> </table>	工事種目	技能検定職種	技能検定作業	仮設工事	とび	・とび作業	防水改修工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗装防水工事作業 ・アクリルゴム系塗装防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法 防水工事作業 ・F R P 防水工事作業	・かわらぶき	外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・かわらぶき作業 ・樹脂接着剤注入工事作業	左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業	建具改修工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ・ガラス工事作業 自動ドア施工 ・自動ドア施工作業 ガラス用フィルム施工 ・建築フィルム作業	内装改修工事 建築大工 ・大工工事作業 建築板金 ・内外装板金作業 内装仕上施工 ・鋼製下地工事作業 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業	塗装改修工事	塗装	表装 ・壁装作業 左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業	建築改修工事 塗装 ・建築塗装作業	耐震改修工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業 型枠施工 ・型枠工事作業 コンクリート圧送施工 ・コンクリート圧送工事作業 鉄工 ・構造物鉄工作業	とび ・とび作業 環境配慮改修工事 配管 ・建築配管作業 路面表示施工 ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業 造園 ・造園工事作業		
工事種目	技能検定職種	技能検定作業																												
仮設工事	とび	・とび作業																												
防水改修工事	防水施工	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗装防水工事作業 ・アクリルゴム系塗装防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業 ・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ・シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法 防水工事作業 ・F R P 防水工事作業																												
		・かわらぶき																												
外壁改修工事	樹脂接着剤注入施工	・かわらぶき作業 ・樹脂接着剤注入工事作業																												
		左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業																												
建具改修工事	サッシ施工	・ビル用サッシ施工作業 ガラス施工 ・ガラス工事作業 自動ドア施工 ・自動ドア施工作業 ガラス用フィルム施工 ・建築フィルム作業																												
		内装改修工事 建築大工 ・大工工事作業 建築板金 ・内外装板金作業 内装仕上施工 ・鋼製下地工事作業 ・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業																												
塗装改修工事	塗装	表装 ・壁装作業 左官 ・左官作業 タイル張り ・タイル張り作業																												
		建築改修工事 塗装 ・建築塗装作業																												
耐震改修工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業 型枠施工 ・型枠工事作業 コンクリート圧送施工 ・コンクリート圧送工事作業 鉄工 ・構造物鉄工作業																												
		とび ・とび作業 環境配慮改修工事 配管 ・建築配管作業 路面表示施工 ・溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・加熱ペイントマシンマーカー工事作業 造園 ・造園工事作業																												
13	13 化学物質の濃度測定 [1. 7. 9]	図示した室のホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告するものとする。 パンツ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う。 ① 30分間換気 測定対象室のすべての窓及び扉 (送り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む) を開放し、30分間換気する。 ② 5時間閉鎖 ①の後、測定対象室のすべての窓及び扉を5時間閉鎖する。 ただし、送り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。 ③測定 イ ②の状態のまま測定する。 ロ 測定時間は、原則として24時間とする。ただし工程等の都合により、24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間帯の中央となるよう、10時30分～18時30分までの時間帯で測定する。 ハ 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。 ④ 分析 測定対象化学物質を採取したパンツ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。 ⑤ その他 監督員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けるものとする。 ・厚生労働省の標準的方法による。																												

4

完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出するものとする。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画数表及び画質等	撮影者
外部（5）箇所 内部（21）箇所	カラー印刷紙・キャビネリ・判利 ・電子データ（JPEGフルカラー圧縮率1/4程度）		4500×3000ピクセル以上で画像の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者	建築完成写真
外部（）箇所 内部（）箇所	カラー印刷紙・キャビネリ※判利 ※電子データ（JPEGフルカラー）	3 3	1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意

撮影部位は監督職員の指示による
電子データは、CD-R等で提出する

19

完成時の提出図書
[1.9.1~3]

19

施工図及び施工計画書

19

設備工事との取合い

19

撤去部分

19

はつり工事等における
非破壊検査

20

適用区分

2

仮設工事

1

騒音・粉じん等の対策
[2.1.3]

2

足場その他
[2.2.1]

3

既存部分の養生
[2.3.1]

4

仮設間仕切り
[2.3.2]

5

監督職員事務所
[2.4.1]

6

工事用水

7

工事用電力

3

防水改修工事

1

降雨等に対する養生方法
[3.1.3]

2

既存防水の処理
[3.1.4][3.2.3、4、6]

3

既存下地の処置
[3.2.6]

4

アスファルト防水
[3.1.4]
[3.3.2~3、5]

完成写真

工事完成時に次の写真を撮影し、監督職員に提出するものとする。

撮影部位及び箇所数	形式・サイズ	提出セット数	画数表及び画質等	撮影者
外部（5）箇所 内部（21）箇所	カラー印刷紙・キャビネリ・判利 ・電子データ（JPEGフルカラー圧縮率1/4程度）		4500×3000ピクセル以上で画像の撮影実績がある者で、監督職員が承諾する撮影業者	建築完成写真
外部（）箇所 内部（）箇所	カラー印刷紙・キャビネリ※判利 ※電子データ（JPEGフルカラー）	3 3	1280×960ピクセル以上かつ撮影したデジタルカメラの設定のうち最高の画質	任意

撮影部位は監督職員の指示による
電子データは、CD-R等で提出する

完成時の提出図書
[1.9.1~3]

完成図（CADデータの提出（※要・不要））
保全に関する資料（提出部数（※）部（）部）
提出書類の詳細については、別途、現場説明書による

施工図及び施工計画書

提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に委譲するものとする

設備工事との取合い

設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける

撤去部分

コンクリート、モルタル等の撤去部分の項目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする

はつり工事等における
非破壊検査

※はつり工事やスリット工事を行う施工前調査において、非破壊検査が必要と考えられる場合は、監督職員との協議により、非破壊検査を実施すること。
※探査方法としては電磁誘導式を原則とする。放射線透過検査等による埋設物の調査を実施する場合、監督職員との協議による。

適用区分

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
風圧力風速 V0= m/s
地表面積区分・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
積雪量 建築基準法施行令第86条第3項の規定に基づく同山市建築基準法施行細則による数値

仮設工事

1 騒音・粉じん等の対策
[2.1.3]

騒音・粉じん等の対策・防音パネル・防音シート
防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲
※工事に必要な範囲・

2 足場その他
[2.2.1]

・内部足場の種別 ※脚立、足場板等・
・外部足場の範囲 ※工事に必要な範囲・
・防護シートの範囲 ※工事に必要な範囲・
・材料、撤去材等の運搬方法・A種・B種・C種・D種・E種
※足場を設ける場合は、改修標準仕様書2.2.1(2)、(5)による。

3 既存部分の養生
[2.3.1]

既存部分の養生方法 ※ビニルシート等・
・既存部分における既存家具等の養生 ※ビニルシート等・
・既存ブラインド、カーテン等の養生 養生方法 ※取外し再取得・
保管場所 ※構内既存施設内・
・固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動 ※行う（図示）
既存部分に汚染又は損傷を与えおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

4 仮設間仕切り
[2.3.2]

仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※図示・
仮設間仕切りの種別と材質等
・A種 ※B種・C種・図示
A、B種の仕上げ材 ※せっこうボード（GB-R厚さ9.5mm）・合板（普通合板厚さ9mm）
A、B種の片面への塗装等・行う ※行わない
A種のグラスウール等の充填材
※行う（JISA6301グラスウール吸音材32K厚50mm）
・行わない
仮設扉 ※木製（合板張り程度）・

5 監督職員事務所
[2.4.1]

※設けない
・既存建物内の一部を使用する（場所：）
・構内に新設する
備品等は、監督職員の指示を受けて設置するものとする

6 工事用水

構内既存の施設 ※利用できる（※有償・無償）・利用できない

7 工事用電力

※別途引込みとする・構内既存の施設を利用できる（※有償・無償）

防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法
[3.1.3]

※改修標準仕様書3.1.3.5(7)~(9)による。

2 既存防水の処理
[3.1.4][3.2.3、4、6]

既存保護層の撤去・行う（範囲 ※図示・）
・行わない
既存防水層の撤去・行う（範囲 ※図示・）
・行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去・行う（・M4AS・M4ASI・M4C・M40I・L4X）
・行わない

3 既存下地の処置
[3.2.6]

既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※図示・
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※改修標準仕様書3.2.6(4)(9)(g)~③による
設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸縁の取付け部、塔屋出入口部、防水層末端部の納まり部の処理
※図示、ただし、図示が無いものは監督職員と協議する・

4 アスファルト防水
[3.1.4]
[3.3.2~3、5]

屋根保護防水
防水層の種別

工 法	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
・P2A	・A-1 ※A-2 ・A-3		※4' JI シェッド材 厚さ0.15mm以上 又は70g/㎡程度 70g/㎡程度	・乾式保護材 ・コンクリート押入 ・レンガ押入
・P1B	・B-1 ※B-2			
・P2AI	・AI-1 ※AI-2 ・AI-3	(材質) JIS A 9521による押出法 8' JIS 9521による断熱材3種も A (スチレン発泡材) (厚さ) (mm) ※25・50	※70g/㎡程度 (70g/㎡程度)	※JIS R 1250 ・
・P1BI	・BI-1 ※BI-2			

[表3.3.3~10]
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.5から表3.3.6による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3及び表3.3.4による
平場の保護コンクリートの厚さとして仕上げる
床仕上げ ※床下 80mm以上
床タイル張り ※床下 60mm以上

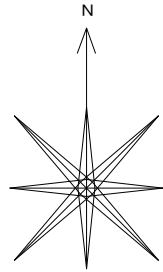
[illegible]

[illegible]

7	樹脂製建具 [5.3.2~4]	性能値等 ・耐風圧性の等級（ ）、機密性の等級（ ）、水密性の等級（ ） ※改修標準仕様書表5.3.11による種別 外部に面する建具 ・A種（建具符号 全て ・建具表による ） ・B種（建具符号 全て ・建具表による ） ・C種（建具符号 全て ・建具表による ） 防音D7、防音サッシの遮音性の等級 ・適用する（等級 ・T-1 ・T-2） ・適用しない（建具符号 ・建具表による ） 断熱D7(0)、断熱サッシ(0)の断熱性の等級 ・適用する（等級 ・H-4 ・H-5 ・H-6 ・H-7 ・H-8） ・適用しない（建具符号 ・建具表による ） 外部に面する建具の日射熱取得性の等級 形状及び仕上げ 枠の見込み寸法 ※建具表による 表面色 ※標準色 ・特注色 取付工法 水切り板、げん板 ※図示 ガラス ※複層ガラス	8	鋼製建具 [5.2.2] [5.4.2~4]	性能値等（建具符号： ・建具表による ） 簡易気密型ドアセット 気密性の等級 ・A-3 水密性の等級 ・W-1 外部に面する面する建具の耐風圧性の等級 ・S-4 ・S-5 ・S-6 防音D4、防音サッシの遮音性の等級 ・適用しない 断熱D4(0)、断熱サッシ(0)の断熱性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 耐震D4の面内変形追従性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない ステンレス鋼板の材料 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 くつずりの仕上げ ステンレス鋼板を用いる場合 ※H以上 形状及び仕上げ 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書 表5.4.2による ・ 使用箇所（ ）	9	鋼製軽量建具 [5.2.2] [5.5.2~4]	性能値等（建具符号： ・建具表による ） 簡易気密型 ・適用する ・適用しない 防音D4、防音サッシの遮音性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 耐震D4の面内変形追従性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 鋼板 区分 材 質 鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 召合せ、縦小口包み板、押縁 ※鋼板 ステンレス鋼板の材料 ※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1 形状及び仕上げ 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書 表5.5.1による ・ 使用箇所（ ） 性能値等（建具符号： ・建具表による ） 簡易気密型 ・適用する ・適用しない 外部に面する面する建具の耐風圧性の等級 ・S-4 ・S-5 ・S-6 防音D4、防音サッシの遮音性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 断熱D4(0)、断熱サッシ(0)の断熱性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 耐震D4の面内変形追従性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 鋼板（屋外） ※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 鋼板（屋内） ※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 表面仕上げ ※H以上仕上げ ・鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（・a角 ・b角 ・c角）	10	ステンレス製建具 [5.2.2] [5.4.2] [5.6.2~5]	性能値等（建具符号： ・建具表による ） 簡易気密型 ・適用する ・適用しない 外部に面する面する建具の耐風圧性の等級 ・S-4 ・S-5 ・S-6 防音D4、防音サッシの遮音性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 断熱D4(0)、断熱サッシ(0)の断熱性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 耐震D4の面内変形追従性の等級 ・適用する（等級 ） ・適用しない 鋼板（屋外） ※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 鋼板（屋内） ※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1 表面仕上げ ※H以上仕上げ ・鏡面仕上げ ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（・a角 ・b角 ・c角）	11	鍵 [5.8.4]	マスターキー ・製作する（ 組） ・製作しない ・既存に絡込む 鍵箱 ・設ける（ 個用 組） ・設けない	12	自動ドア開閉装置 [5.9.2~3]	引き戸用検出装置の種類 ※光線（反射）センサー ・電波センサー ・音波センサー ・熱線センサー ・光電センサー ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用使用スイッチの種類 ・大形（開・閉）押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ	13	自閉式上吊り引戸装置 [5.10.3]	性能等 ※標準仕様書 表5.10.1による	14	重量シャッター [5.11.2~5]	種類 ・管理用 ・外壁用防火 ・屋内用防火 ・防煙 防火又は、防煙シャッターは、自動閉鎖装置及び随時閉鎖装置付とし、連動制御壁及び煙感知器は別添とする 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（ ）Pa 開閉方式の種類 ※電動式（手動併用） ・手動式 急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ※図示 障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所 ※図示 屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所 ※図示 適用する危害防止機構 ※改修標準仕様書5.10.2(4)(2)(a)かつ(c) ・(b)かつ(c) 管理用シャッターのシャッターケース（防火、防煙以外） ※設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ※JIS 6 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） ・JIS 6 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）	15	軽量シャッター [5.12.2~4]	開閉方式の種類 ※手動式 ・電動式（手動併用） 耐風圧強度（ ）N/m ² スラットの材質 ※JIS G 3 3 1 2（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量（※Z06又はF06を満足するもの） ・JIS G 3 3 2（塗装溶融55%Zn-Al-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） めっきの付着量（※A290を満足するもの） スラットの種類 ※インターロッキング形 ・オーバーラッピング形 シャッターケース ※設ける ・設けない ガイドレールの材質 ※ステンレス製（SUS304）厚さ1.0mm（※中柱具） 座板（屋外の場合） ※ステンレス製既製品	16	オーバーヘッドドア [5.13.2~3]	セクション材料による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバークラスチック 風圧力による強さの区分 ・175 ・125 ・100 ・75 ・50 開閉方式による区分 ※バンス式 ・チェーン式 ・電動式 収納方式による区分 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイルフト形 ・パーティカル形 ガイドレールの材質 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス製（SUS304）厚さ2.0mm	17	ガラス [5.14.2]	下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等 ※建具表による ・合わせガラス 材料板ガラスの種類 組合せ 特性による種類 ※フロート合わせガラス ※フロート板合わせガラス ・I類 ・II類 ・熱線吸収、フロート板合わせガラス ・I類 ・II類 ・網入り、フロート板合わせガラス ・I類 ・II類 ・網入り、熱線吸収板合わせガラス ・II類	18	ガラス留め材 [5.14.2]	強化ガラス 材料板ガラスの種類 材料板ガラスの種類による名称 特性による種類 ※フロートガラス ※フロート強化ガラス ・I類 ・II類 ・熱線吸収強化ガラス ・型板ガラス ※型板強化ガラス ・熱線反射ガラス ※熱線反射強化ガラス ・複層ガラス 断熱性による区分 日射取得性、日射遮蔽性による区分 ・T1 ・T2 ・T3 ・T4 ・T5 ・T6 ・G ・S ・熱線反射板ガラス 材料板ガラスの種類 色 調 ※熱線反射ガラス ・ブルー ・グレー ・高性能反射板ガラス ・ブロンズ ・シルバー 種 類 日射遮蔽性 耐久性 ガラスの種類 ※熱線反射ガラス ・1種 ・A種 ・高性能反射板ガラス ・2種 ・A種 ・B種 ・3種 ・B種 反射膜面 ※内面 ・外面 映像調整 ※行わない ・行う ・熱線吸収板ガラス 材料板ガラスの種類 性能による種類 厚さによる種類 ・熱線吸収フロート板ガラス ・1種 ・2種 ※建具表による ・熱線吸収網入り磨き板ガラス ・	19	ガラスブロック積み [5.14.5]	表面形状 呼び寸法（mm） 厚さ（mm） 色調 クリア 乳白 平面 隅 曲面 積み 目地幅（mm） 伸縮調整目地 防火性能 ・正方形 ・160×160 ・95 ・ ・ ※A〜15 外側 ※標準仕様書5.14.5(2)(y)(a)② 10〜25 ・あり ・200×200 ・95 ・ ・ 内側 ※標準仕様書5.14.5(2)(y)(a)②	20	ガラス用フィルム [5.14.5]	壁用金属枠及び補強材 ・設ける（形状 ※図示による ） 力骨 ※ステンレス鋼（SUS304）径5.5mmはしご形状複設及び単設 目地部の力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による 化粧目地モルタルの色（ ） シーリングの種類（ ） 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 ・図示による 形状 ・図示による 工法 1章 20 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法	21	付属電気設備	自動扉、電動シャッター、電動オーバーヘッドドアの電動機が三相電動機0.4KW以上の場合は、機器付属の操作室内に電動機保護用遮断機及び進相用コンデンサを設置する	22	木製建具 [5.7.2~4]	建具材の加工 組立時の含水率 ※A種 建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・フラッシュユ 表面材の合板の品質等 合板の種類 規格等 備考 ・普通合板 表面の樹種 生地、透明塗料塗り（※30°程度） ・不透明塗料塗り（※しな合板程度） 板面の品質（・広葉樹1等） 接着の程度（・1類 ・2類） ・天然木 化粧合板 樹種名（ ） 接着の程度（・1類 ・2類） ・特殊加工 化粧合板 化粧加工の方法（・オナール・ブラント・塗装） 表面性能（ ）タイプ 接着の程度（・1類 ・2類） ・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF） 表面板の厚さ ※表5.7.6による ・かまち戸 かまち樹種（ ） 鏡板樹種（ ） 見込み寸法 ※36mm ・建具表による ・ふすま 強りの種別（・I型 ・II型） 上張り ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度 押入等の裏側は雲花紙程度 縁仕上 ・塗り縁 ・生地縁（素地） ・生地縁（ウレタンリキヤー塗装） 見込み寸法 ※19.5mm ・建具表による ・戸ぶすま 見込み寸法 ※30mm ・建具表による ・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm ・建具表による 枠、くつずりの材料 ・建具表による	23	内装改修工事	1 他の部分との取合い等 [6.1.3]	・既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁面及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ※図示 ・天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より面材600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ※図示 ・既存天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※既存のまま ※図示	24	既存床の撤去及び下地補修 [6.2.2]	ビニル床シート等の撤去 ※仕上材のみ（接着剤とも） ・下地モルタルとも（・図示の範囲 ・撤去範囲全て） ・機械的除去法 ・目置し工法 合成樹脂塗床材の除去 既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4章外装改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※改修部の端部より1m程度 ※図示	25	既存壁の撤去及び下地補修 [6.3.2]	間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※改修標準仕様書4.3.10によるモルタル塗り （仕上げ厚又は全塗厚25mmを超える場合の配置 ※図示）	26	製 材 [6.5.2]	ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
---	--------------------	---	---	------------------------------	--	---	--------------------------------	--	----	---	---	----	--------------	---	----	-----------------------	--	----	------------------------	-----------------------	----	-----------------------	--	----	-----------------------	--	----	-------------------------	--	----	-----------------	--	----	--------------------	---	----	-----------------------	--	----	----------------------	---	----	--------	---	----	-------------------	--	----	--------	-------------------------	--	----	-------------------------	---	----	-------------------------	---	----	----------------	------------------------

[illegible]

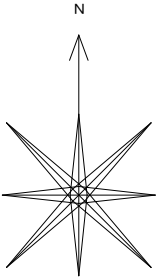
3	セメントの種類 [8.2.5]	表8.2.5		6	普通ボルト (7.2.3)	ボルト及びナットの材料等 ※標準仕様書 表7.2.3による 座金 ※標準仕様書 表7.2.3(4)による 母屋又は鋼縁の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm ・図示	7	アンカーボルト (7.2.4)(7.3.2) (7.10.3)	適用 ・構造用アンカーボルト セツトの種類 ・ABR400 ・ABR490 形状、寸法 ※構造図による ・建方用アンカーボルト 種類 ・SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による ・標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト 適用箇所 ・図示による() 種類SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書 表7.2.3による	2	建方精度 (7.10.2)	※(一社)日本建築学会「JASS 6鉄骨工事」付則6〔鉄骨精度検査基準〕 付表5〔工事現場〕による	2.1	アンカーボルトの保持及び埋込み工法 (7.2.4)(7.10.3)	構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ※構造図による 建方用アンカーフレームの保持及び埋込み工法 表7.10.1 種別 ・A種 ・B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種別 表7.10.2 ※標準仕様書 表7.10.2(※A種〔モルタル厚さ50〕 ・B種〔モルタル厚さ30〕)による	2.2	錆止め塗装 [7.4.3] [8.17.2~4]	塗料の種類 亜鉛めっき鋼面の錆止めの塗料 ※改修標準仕様書 表7.4.2のA種 ・改修標準仕様書 表7.4.2のB種 ・E P-Gの適用箇所は改修標準仕様書 表7.4.2のC種 塗装を行う耐火被覆材の接着する面への塗装 ・行う 適用箇所 ※構造図による 塗装の種類 ※構造図による ※行わない	2.3	溶融亜鉛めっき工法 (主要構造及び構造耐力上主要な部分に限る) [8.20.4]	種別等 亜鉛めっきの種類 材料 適用箇所 A種 (HDZ55) 最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板 ※図示による B種 (HDZ45) 最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板 C種 (HDZ35) 普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	8 1 4 あ と 施 工 ア ン カ ー 工 事	1	あと施工アンカー [8.2.4]	引張耐力 ・せん断耐力 ・ ・金属系アンカー 本 体 セット方式 種類 径 (mm) 長さ (mm) 径 (mm) 埋込み深さ (mm) 本体打ち込み式表裏型 ※接着系アンカー 径 (mm) 埋込み深さ (mm) 接着剤の材質 アンカーの種類 アンカー筋の種類 ※有機系 ※カプセル方式回転・打撃式 ・無機系 アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ※構造図による 2 穿孔前の埋込配管等の探査 [8.12.4] 探査範囲 ※穿孔範囲の全て 探査方法 ※鉄筋探知機 (金属探知機) により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる 3 あと施工アンカーの試験 [8.2.4][8.12.7] (14.1.3) 性能確認試験 ※行わない ・行う 施工確認試験 ・行う ・行わない 確認強度 ・構造図による 4 シアコネクタ (8.7.8) ・金属拡張系アンカー 適用箇所 ※構造図による ・接着系アンカー 適用箇所 ※構造図による 5 施工管理技術者 [8.12.2] (一社)日本建築業あと施工アンカー協会が定める「あと施工アンカー技術管理士」の資格以上の能力を有する者とする。	8 1 5 グ ラ ウ ト 工 事	1	柱底均しモルタル [8.2.12]	無収縮モルタル ・使用する ・使用しない 2 グラウト材 [8.2.12] 無収縮グラウト材の材質等 混和材 セメント系 (酸化カルシウム及びカルシウム・サルフォ・アルミニート等) によって膨張する性質を利用するもの) とする。 JIS R 5210「ポルトランドセメント」に適合した普通または早強ポルトランドセメントとする。 セメント 土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。 砂 無収縮性 材齢 7日 収縮しない 圧縮強度 材齢 3日 20N/mm2以上 材齢 28日 40N/mm2以上 塩化物流量 0.30kg/m3以下 試験方法 1) NEX00試験方法 試験法312-1999「無収縮モルタル品質管理試験方法」による。プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合の試験はプレミックス形のみとする。 2) 塩化物流量の試験は、JIS A 1144「フレッシュコンクリート中の水の塩化物イオン濃度試験方法」による。	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	10	デッキプレート (7.2.7)	工法の種別 ・合成スラブ (適用箇所 ・構造図による) ・床型枠用 (適用箇所 ・構造図による) ・ 材質、形状及び寸法 ・構造図による ・鉄骨部材への溶接方法 ・構造図による 耐火認定 ・有り (耐火時間 ・図示による) ・なし ※頭付スタッド (JIS B1198) 径 (呼び名) 長さ (呼び長さ) mm 使用箇所 16φ ・80 ・100 ・120 19φ ・80 ・100 ・130 ・150 22φ ・80 ・100 ・130 150	11	スタッドボルト [8.2.11]	モルタルの種類 ※無収縮モルタル 無収縮モルタルの材料及び調合 ※改修標準仕様書8.2.12による ・改修標準仕様書8.1.3.3及びH12建第1464号第二号イによる 適しダイヤフラムの許容誤差 ・ダイヤフラムをH12建第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り 補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・全てのダイヤフラムをH12建第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること ※行わない ・行う (適用箇所 ※構造図による) ・なし	12	柱底均しモルタル [8.2.12]	製作精度 [8.13.3] ・改修標準仕様書8.1.3.3及びH12建第1464号第二号イによる 適しダイヤフラムの許容誤差 ・ダイヤフラムをH12建第1464号第二号イ(1)(2)に規定するただし書きの計算確認有り 補強方法 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・全てのダイヤフラムをH12建第1464号第二号イ(1)(2)に規定する仕様を満足すること ※行わない ・行う (適用箇所 ※構造図による) ・なし	14	仮組 [8.13.10]	高力ボルト接合 [8.14.2]	スプラインプレートの材質 ※鋼材の種類及び引張強さによる区分は母材と同等とする フィラープレートの材質 ※SS400とする	16	溶接接合 [8.15.4][8.15.7]	開先形状 ※構造関係共通事項 4 溶接継手の種類別開先標準による ・構造図による スカラップ形状 ※構造関係共通事項 6 スカラップによる ・構造図による 鋼製エンドタブの切断する部分 切断する箇所 ※構造図による 切断する範囲 ・鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。なお、切断面が交差する場合は、交差部を7-8状に加工する 切断面の仕上げ ※改修標準仕様書8.15.7(1)(5)(b)②による ・構造図による 完全溶込み溶接部の余盛り高さ ※(一社)日本建築学会「JASS 6鉄骨工事」付則6〔鉄骨精度検査基準〕付表3〔溶接〕による 鋼製エンドタブ・裏当て金 ※鋼材の種類及び引張強さによる区分は母材と同等とする	17	入射、バス間温度の溶接条件	鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ※構造関係共通事項による ・図示 適用箇所 ※ 梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接 ・図示による 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う ・行わない 工場溶接の場合 ※全数 工事現場溶接の場合 ※全数 割れの疑いのある表面欠陥においては、浸透探傷試験及び磁粉探傷試験を行う 突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による ・抜き取り検査1 ※抜き取り検査2	19	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5] (7.1.1)(7.1.3)	鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条の56に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び全国鉄骨評価機構(旧(社)全国縦横工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める次のグレードと国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場とするものとする。 (・ Jグレード ・ Rグレード ・ Mグレード ・ Hグレード ・ Sグレード)	2	鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]	※配置する ・配置しない	3	鋼材 [8.2.8]	鋼材の材質 表8.2.7 種類の記号 適用箇所 規格等 ※JIS S規格による ※JIS S規格による ※JIS S規格による	4	高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.14.2]	区分 ※トルシアン高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS S高力ボルト 2種 (F10T) 高力ボルトの径 ※図示による すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	5	溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.2.9][8.13.2] [8.20.5] (7.12.5)	セツトの種類 ※1種 (F8T相当) 溶融亜鉛めっき高力ボルトのめっき前の孔径 ・大臣認定を受けた内容による 摩擦面の処理 ※ブラスト処理 (表面粗度50μmR以上) ・ブラスト以外の特別な処理 (りん酸塩処理) すべり試験 ※行わない 行う (すべり係数試験 ・すべり耐力試験) 試験方法等 ※構造図による すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1)(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。	9	耐火被覆 [8.18.2~8]	耐火被覆の材料等 ・耐火材吹付け ・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール ・耐火板張り ・繊維混入けい酸カルシウム板 ・耐火材巻付け ・高耐熱ロックウール ・ラウズ張りモルタル塗り ・耐火塗料 材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする	性能 性能 適用箇所 (部位・部分) ・30分耐火 ・1時間耐火 ・2時間耐火 ・3時間耐火	8 1 6 連 続 縦 横 補 強 工 事	1	連続縦横シート [8.2.13][8.24.6] [8.24.7]	連続縦横の材料 ・炭素繊維 ・アラミド繊維 連続縦横の材質 引張強度 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 ヤング係数 (含浸硬化後) ・ () N/mm2 繊維目付量 ・ () g/m2 シート厚さ ・ () mm シート貼り方向 ※図示 定着方法 ※図示 含浸接着樹脂 ・低臭型 プライマー ・低臭型 下地処理 仕上げモルタルの除去 ※行う ・行わない 下地処理の範囲 ※図示 下地処理の程度 ※図示 柱及び梁の隅角部の面取り 大きさ ※図示 下地調整 ※行う	8 1 7 鉄 骨 工 事	1	鉄骨の製作工場 [8.1.5]
---	--------------------	--------	--	---	------------------	--	---	---------------------------------------	---	---	------------------	--	-----	--------------------------------------	--	-----	--------------------------------	---	-----	--	--	---	---	---------------------	--	---	---	----------------------	--	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	----	--------------------	--	----	---------------------	---	----	----------------------	---	----	-----------------	---------------------	--	----	--------------------------	--	----	---------------	--	----	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------------------------	---	---	------------------------------	--------------	---	---------------	---	---	--------------------------------------	--	---	---	---	---	--------------------	---	---	---	---	---	---	---------------------------------	---	--------------------



附近見取図 1/2500

工事場所：岡山市東区久保205番地1

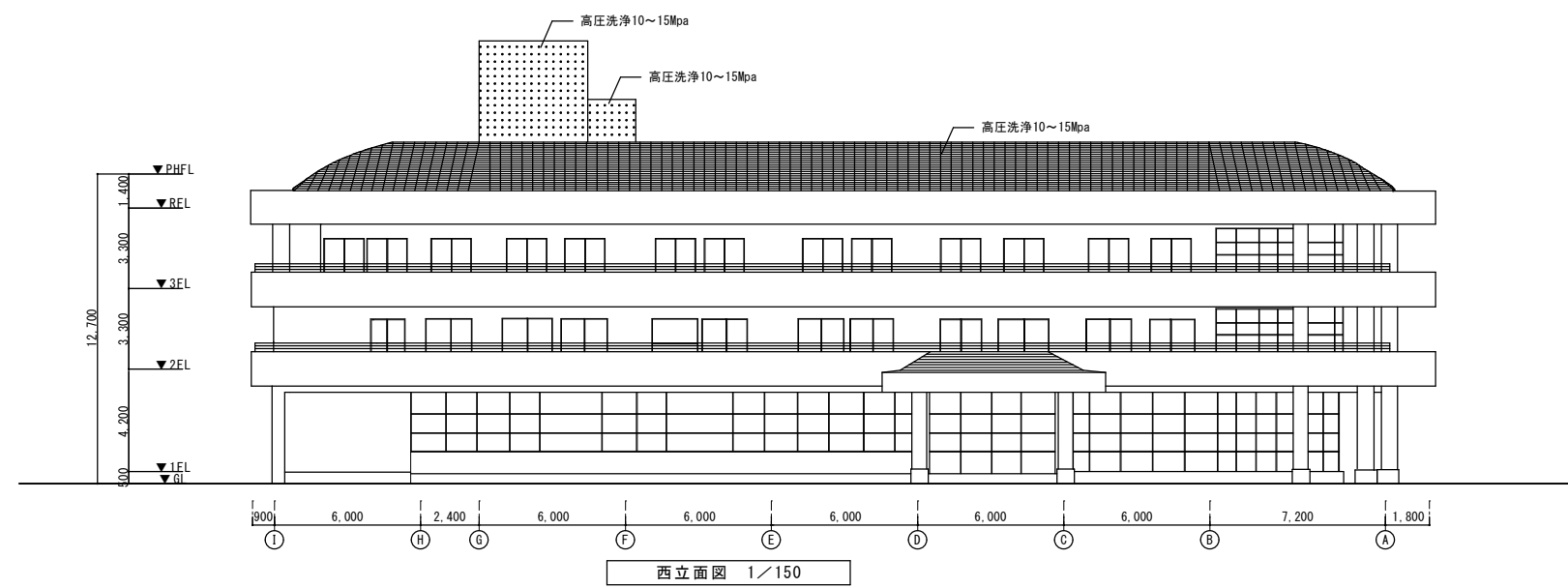
岡山市会陽の里屋上防水改修工事					No.		株式会社 総合設計	
附近見取図					A-07		一級建築士事務所 岡山市登録No.1910	
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					A-20		一級建築士 第92328号 井上 元	
課長 課長補佐 係長 課員					承認		〒701-0145 岡山市北区今保185-8	
担当者					承認		TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9493	
							校図	
							製図	



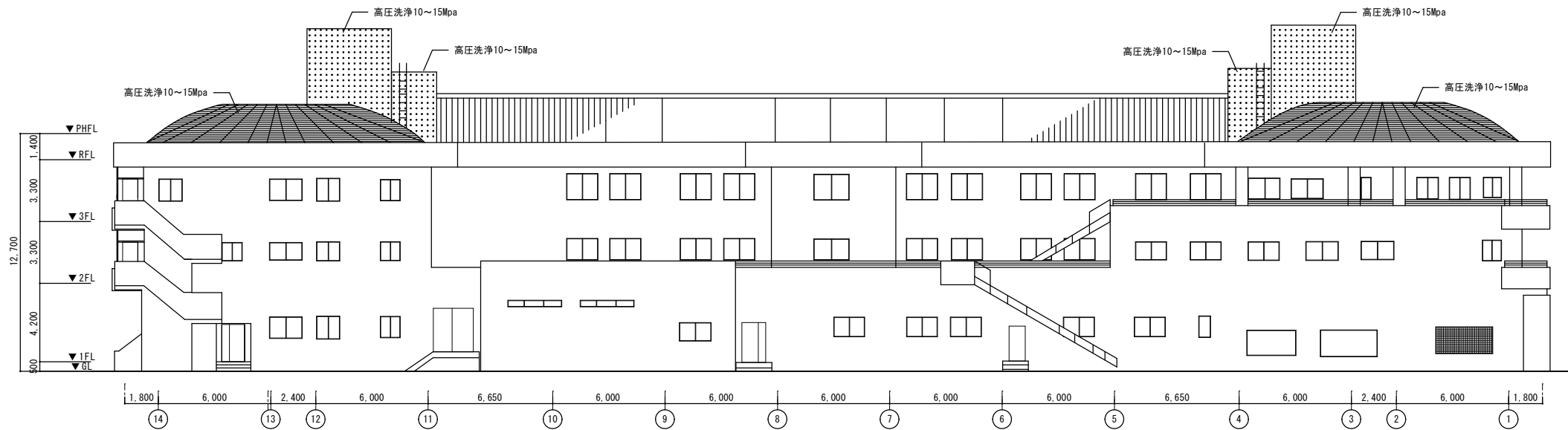
配置図兼仮設計画図 1/200

工事名	岡山市会館の里屋上防水改修工事				N o .	株式会社 総合設計	
図面名	(参考) 配置図兼仮設計面図				縮尺	A1... A3... 1/200	一級建築士事務所 熊知孝 担当 1910 一級建築士 第92326号 井上 元 〒701-0145 岡山市北区今保185-8 TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9493
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和6年7月	A-08 A-20		
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図

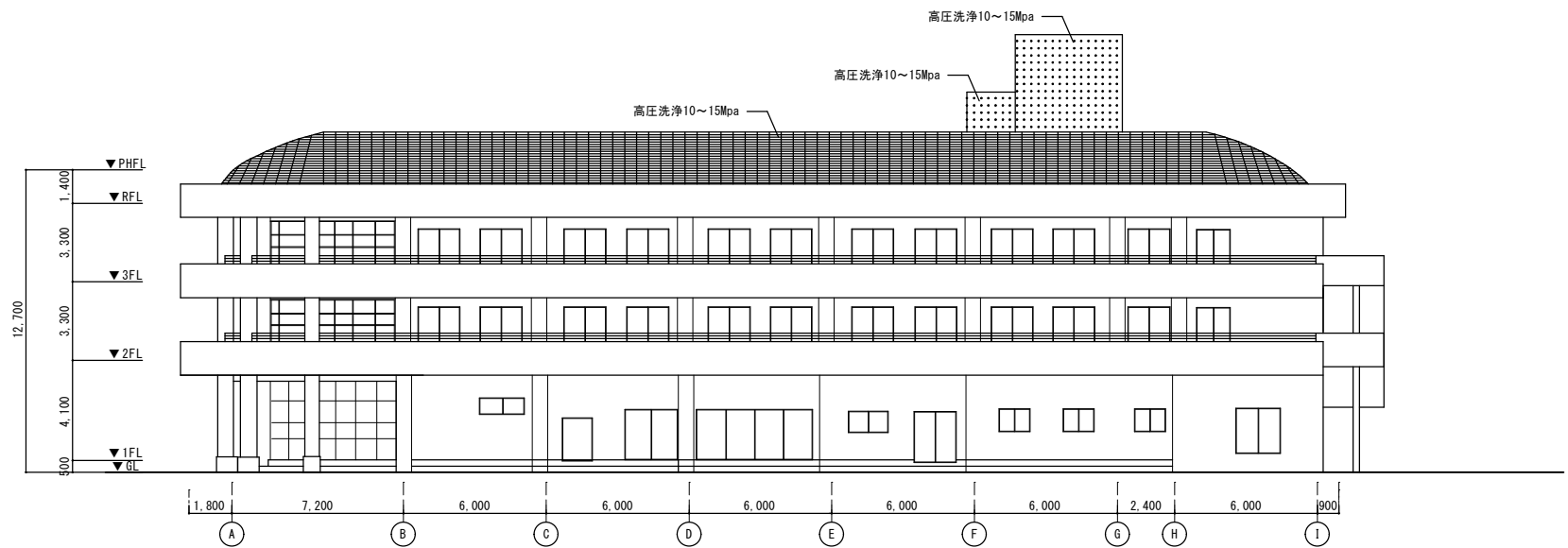
[illegible]





凡例	<div><div></div>板金屋根</div> <div><div></div>擬石張り</div>					No.			株式会社 総合設計		
	岡山市会陽の里屋上防水改修工事					A-10			一級建築士事務所 熊野専務取締役No.1910		
	立面図1					A-20			一級建築士 第92328号 井上 元		
	岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					令和6年7月			〒701-0145 岡山市北区今保185-8		
課長		課長補佐		係長		課員		担当者		承認	
										校図	
										製図	



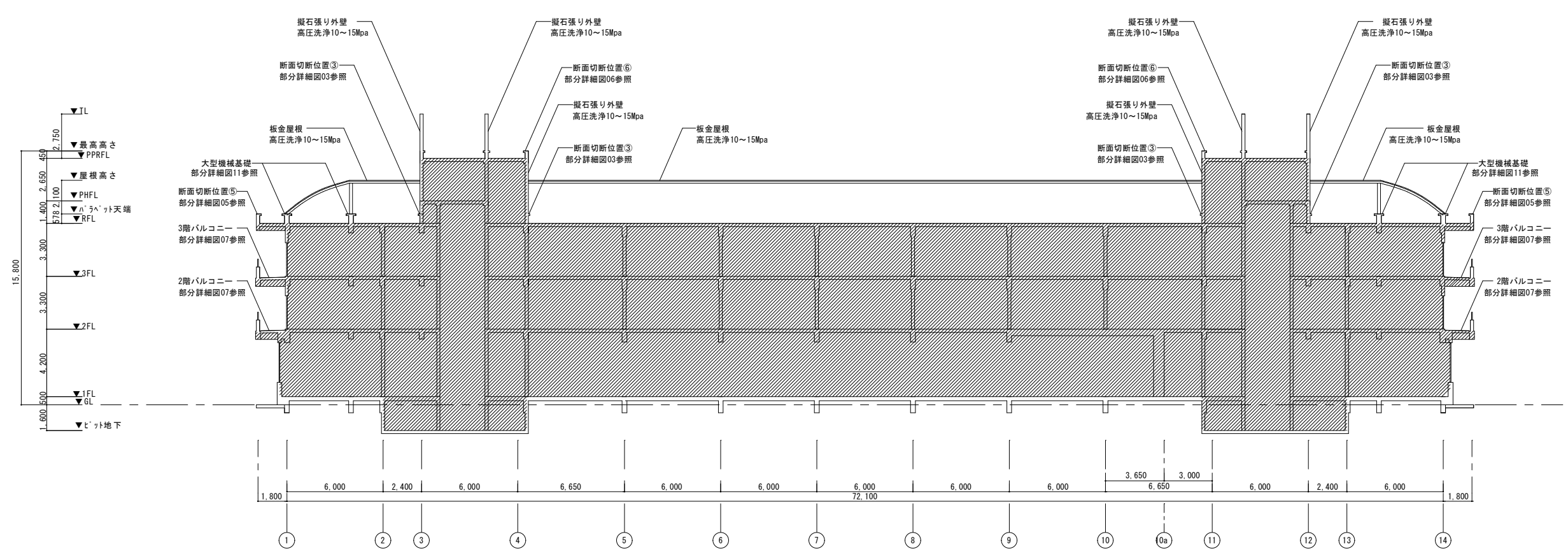
北立面図 1/150



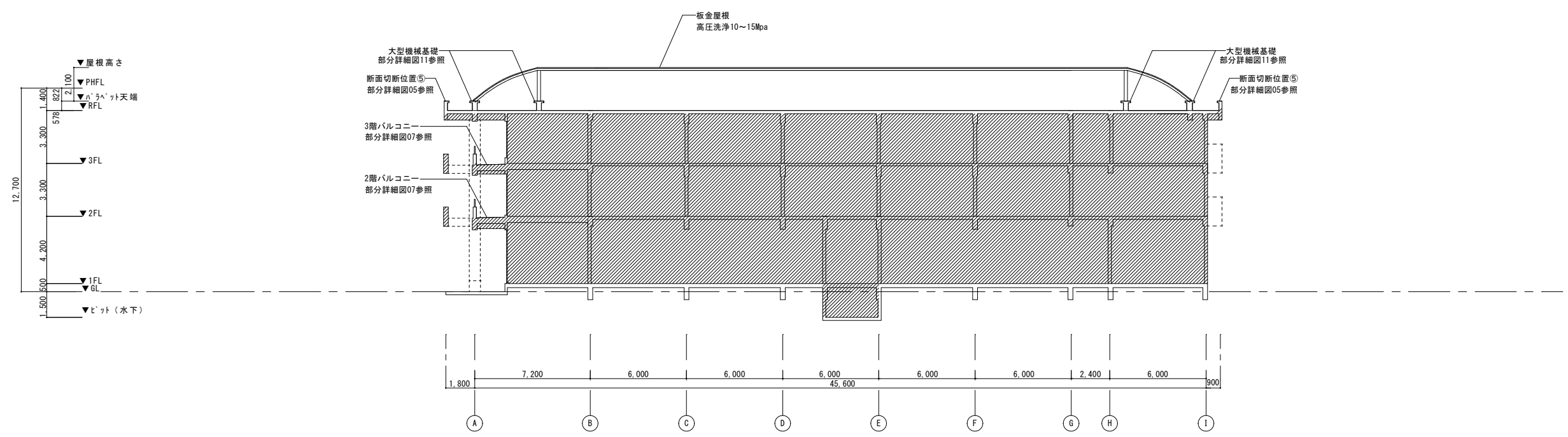
東立面図 1/150

凡例	 板金屋根	 擬石張り
----	--	--

工事名	岡山市会場の里屋上防水改修工事					N o .	株式会社 総合設計	
図面名	立面図2			縮尺	A1... 1/150 A3... 1/150	A-11 A-20	一級建築士事務所 熊知専登 登録No.1910 一級建築士 第92328号 井上 元 〒701-0145 岡山市北区今保185-8 TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9492	
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和6年7月				
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	校閲	製図	



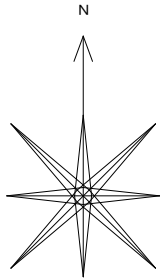
A-A' 断面図 1/150



B-B' 断面図 1/150

凡例	<div></div> 工事範囲外	<div></div> 防水改修工事対象
----	-------------------	----------------------

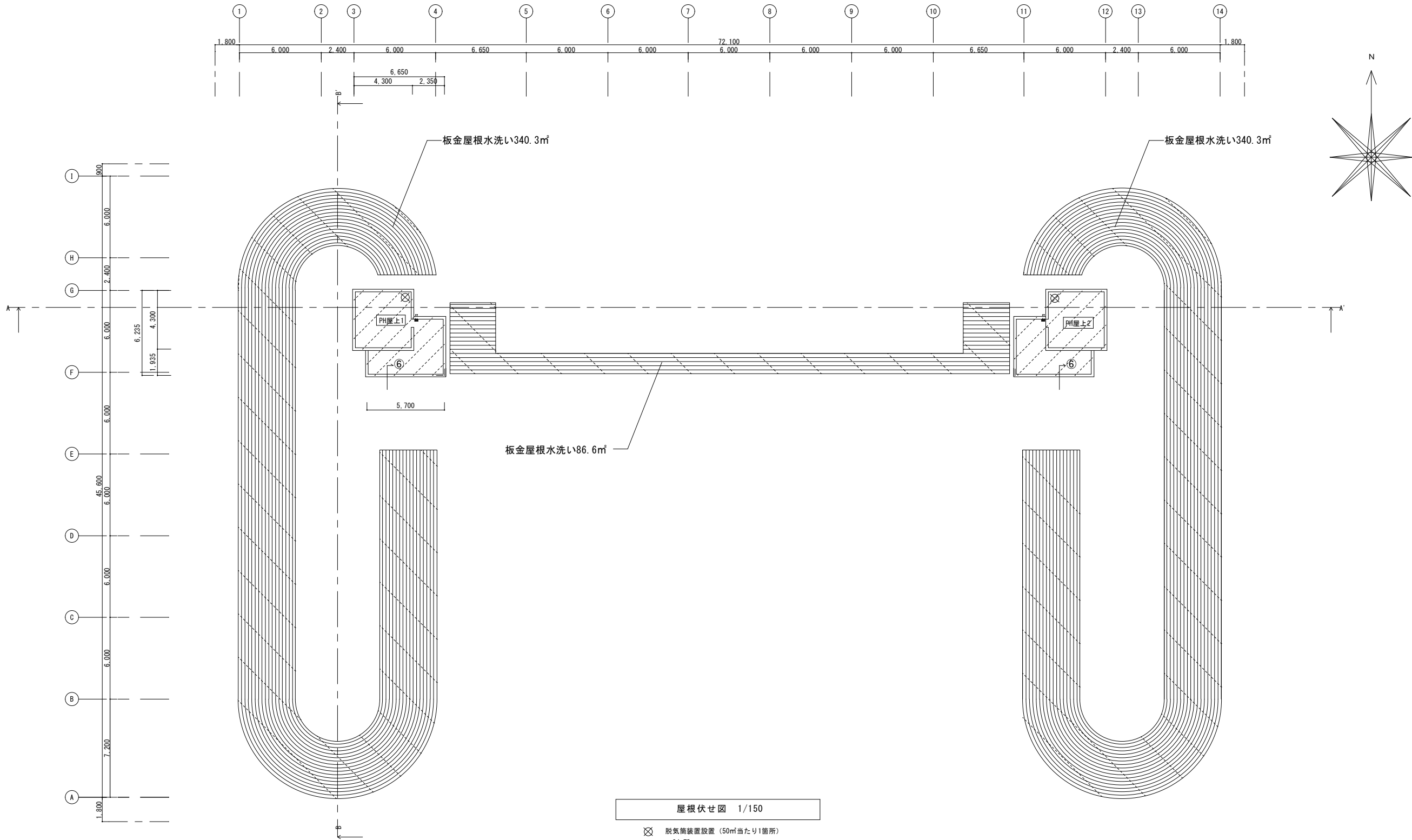
工事名	岡山市会場の里屋上防水改修工事					N o .	株式会社 総合設計		
図面名	断面図				縮尺	A1... 1/150 A3... 1/150	A-12		
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和6年7月	担当者	承認	校閲	製図	
課長	課長補佐	係長	課員						



脱気筒装置設置 (50㎡当たり1箇所)
x 2か所






工事名	岡山市会陽の里壁上防水改修工事			N o.	株式会社 総合設計	
図面名	3階平面図 (前後)			縮尺	A1... 1/150 A3... 1/150	一般建築士事務所 熊知事務所 1910 一級建築士 第92328号 井上 元 〒701-0145 岡山県北區今庄185-8 TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9493
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和6年7月	A-14 A-20	
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図 製図

株式会社 総合設計
一級建築士事務所 県知事登録№.1910
一級建築士 第92328号 井上 元
〒701-0145 岡山市北区今保185-8
TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9493

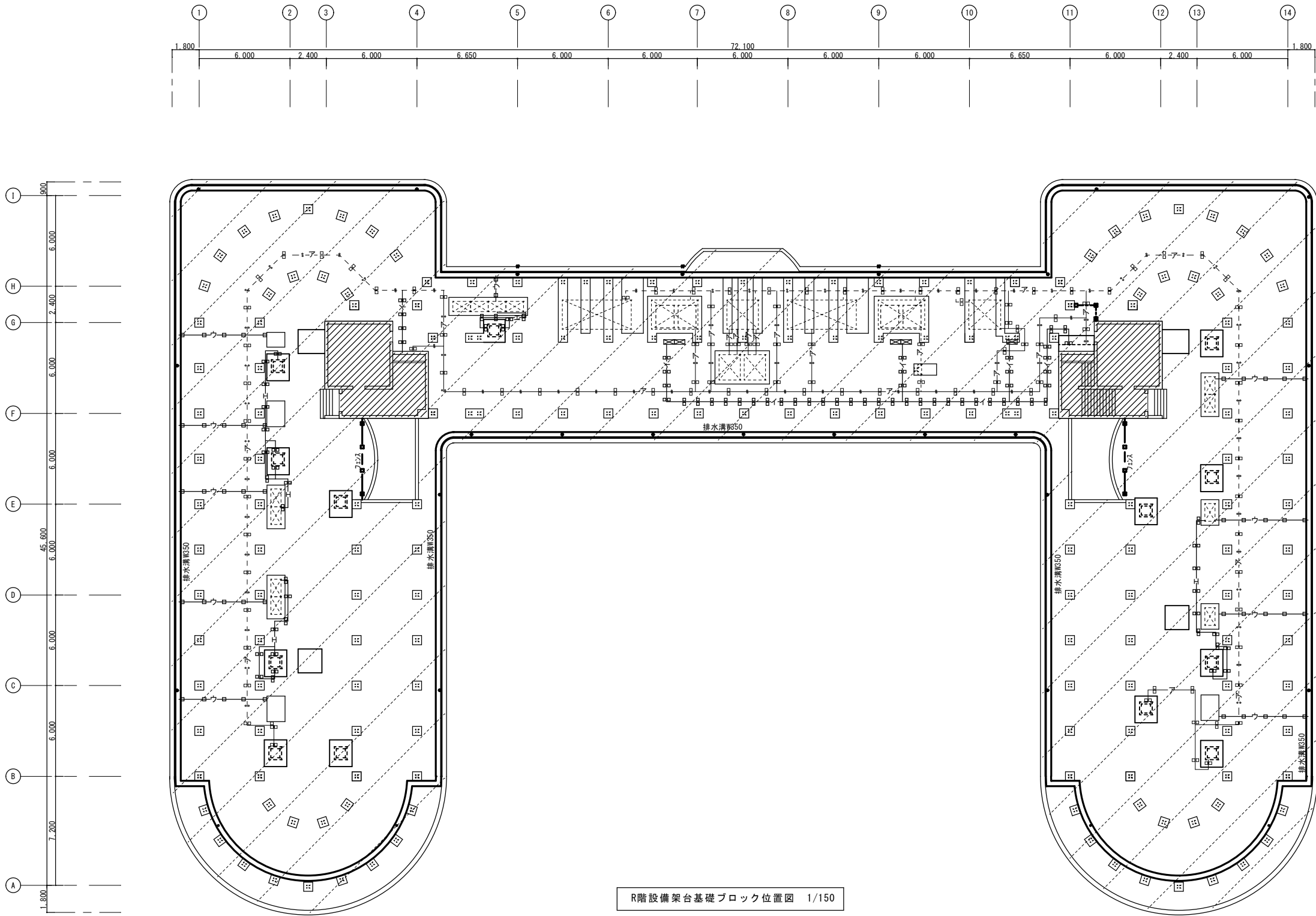


屋根伏せ図 1/150

⊗ 脱気筒装置設置 (50㎡当たり1箇所)
x Zか所

工事内容 <詳細図参照>						
凡例 (面積)	場所	部位	改修前	撤去内容	改修後	改修内容
			仕上げ		仕上げ	
 (65.5㎡)	PH階屋上	立上	コンクリート直押えの上アスファルト露出防水・防水押え金物共	撤去	下地調整の上 グルン塗膜防水X-2	新設
		平場	コンクリート直押えの上アスファルト露出防水	撤去	下地調整の上 グルン塗膜防水X-1	新設
	屋根	板金屋根	長尺フッ素銅板葺き (横葺)	既存のまま	長尺フッ素銅板葺き (横葺)	高圧洗浄10～15Mpa
凡例	 工事範囲外	 ①～⑥ 断面切断位置を示す <改修概要は詳細図1-1～6参照>		 横引125Φ <改修概要は詳細図3-12参照>		

工事名	岡山市会場の里屋上防水改修工事				N o .	株式会社 総合設計		
図面名	屋根伏せ図 (前後)			縮尺	A1... 1/150 A3... 1/150	A-16 A-20		
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課	課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	校閲	製図



R階設備架台基礎ブロック位置図 1/150

基礎ブロックリスト<改修概要は詳細図3-14参照>		
記号	寸法 (W x W x H) @スパン長さ x 基数	箇所
—ア—	180 x 180 x 120@2500 x 2	58 (96)
	110Φ x 120@2500 x 2	77
—イ—	180 x 180 x 120@ 920 x 2	48
—ウ—	150 x 150 x 60@1500 x 1	47
—エ—	180 x 180 x 60@1500 x 2	37
備考 基礎ブロックを移動しながら工事を行うこと。 ただし、移動困難ブロックの改修概要は詳細図3-14参照 ※移動困難ブロックは点線で図示。 ()内は移動困難ブロックで内数		

工事名 岡山市会陽の里屋上防水改修工事					No.		株式会社 総合設計	
図面名 R階設備架台基礎ブロック位置図					縮尺 A1... 1/150 A3... 1/150		一級建築士事務所 熊知専登録No.1910 一級建築士 第92328号 井上 元 〒701-0145 岡山市北区今保185-8 TEL 086-241-9082 FAX 086-241-9493	
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課					令和6年7月		A-17 A-20	
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	校閲	製図	

